

行仙宿で奈良テレビ放送の取材・撮影

◇実施日 3月20日(月) 晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、中前偉、内野井慎作、濱野兼吉、

大森洋、生熊敏男・千満子、大江加予子・徳子、畑林

清子、高階美根子 12名

十津川村と下北山村の推薦で「あしたのなら表彰」を受賞した。この制度は奈良のPRや魅力の向上に貢献したり、県民に元気や感謝を与えたりする活動を行っている個人や団体を表彰するもので、昨年12月17日に奈良県の荒井知事から直接表彰状とメダルを頂いた。

その後3月2日、奈良テレビ放送の平野ディレクターから電話が入り、受賞者団体の活動を3月23日に放送するので取材の協力をお願いしたい、とのことであった。

3月7日に沖崎、梶野の二人で平野ディレクターを行仙宿へ案内し、下見と打合せを行った。

20日の当日には12名の皆さんが参加して下さった。この際、連休用のコーラや浦向道巡視の際持ち降ろしていたエンジンブロワーなどの荷揚げ品を準備していたが、内野井君からテーブル用のコンクリート板を荷揚げするとの申し出を頂き、前日に中前君の軽トラに積込んだ。



登山口に到着



コンクリート板を運ぶ



雨水槽を戻す

午前10時半に登山口集合としたが、奈良テレビ放送の4名がやってこない。荷物を満載したモノレールと11名の皆さんには先行していただき、沖崎一人で奈良テレビ放送の到着を待つことになった。

30分程経った午前11時頃に4人を乗せた車が到着。3人がモノレールに、平野ディレクターが徒歩でモノレール終点に向かう。

モノレール終点から5人で登りだすと、第2ベンチで全員が待機していた。内野井君はここまで2往復したらしく、2枚のコンクリート板が置かれていた。

第2ベンチから小屋までの間で荷揚げの撮影とインタビューの収録を行い小屋に着く。

昼食までにお堂や小屋の清掃、凍結防止のため伏せていた雨水槽の再設置などを行い、昼食後に取材撮影が始まる。

最初にお堂で本日の安全祈願勤行。水場に降りての水汲みには濱

野、大森の2名が付き添い、テレビ局は女性レポーターとカメラ、音声の3人が向かった。女性レポーターは7リットルのポリタンクを担いでいった。



お堂で勤行



水汲みに



水場から生還

水場からの帰りを待つが、40分、50分待っても戻ってこない。梶野君が迎えに行ったが、5分程で戻って来た。途中で何度も休憩したらしく、かなり苦労したようだ。その分いい絵が取れたことだろう。

水汲みが終わった所で薪造りを始める。小屋南側に集めていた丸太を30cm位に玉切りし、斧や楔で割っていく。女性レポーターも挑戦、気持ちよく割れるようになってきたようだった。

インタビューの打ち合わせや撮影時の注文も多く、思っていた以上に時間が掛った。午後4時前になってようやく撮影が終わり下山した。



薪造り



崩れを片付ける



本日の参加者



インタビュー続く



コンクリート板2枚

今回内野井君は作業の合間に第2ベンチまで降りて、2枚目のコンクリート板を運んでくれた。一枚が約22kgだが長さが150cmあ

りバランスをとるのが難しいので、一枚目は背負子につけて担いだが、2枚目は抱えて運んでくれた。距離は短いが足元の悪い山道なので大変だっただろう。ご苦労様でした。
(記：沖崎)

行動タイム

09：30 役場駐車場↓09：55 補給路登山口↓12：00 行仙宿 15：55
↓16：38 補給路登山口